



那須塩原市景観色彩ガイドライン



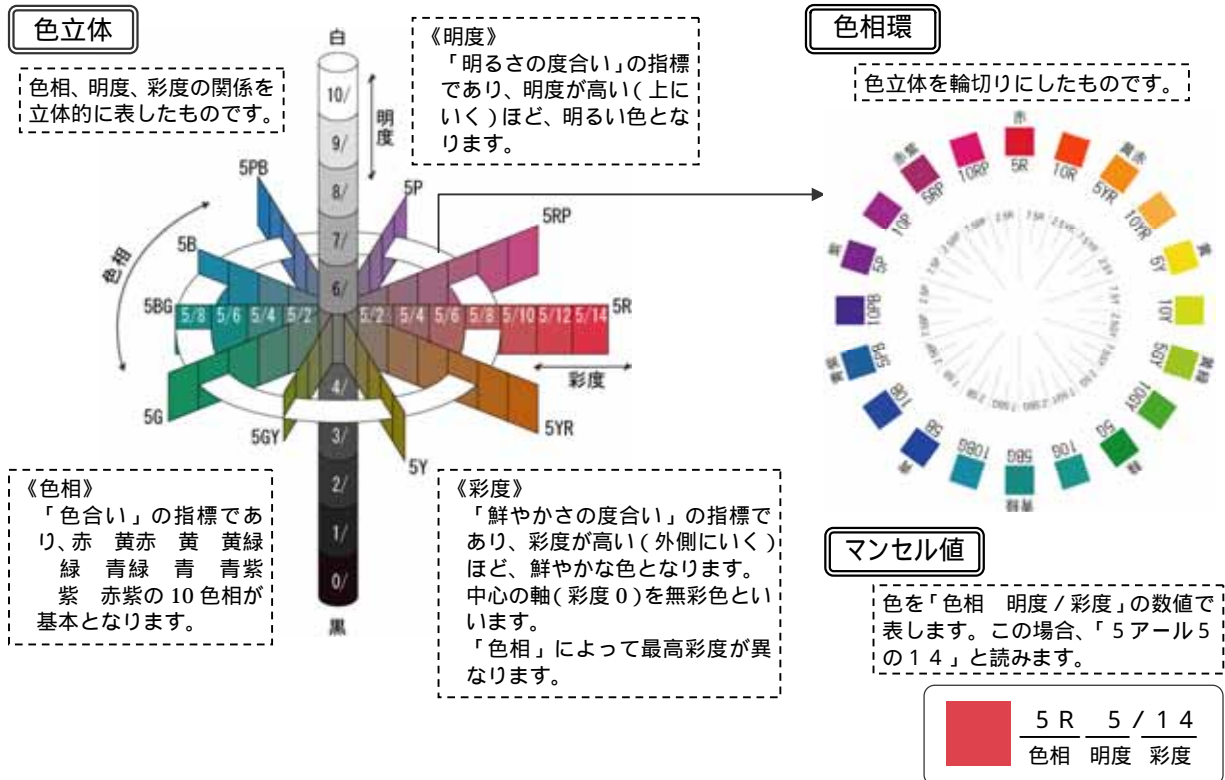
平成 22 年 3 月
那須塩原市

1 色彩の基本的事項

本ガイドラインは、色彩の持つ以下のような特性にもとづいて策定しています。

マンセル値による色の客観的表現

色を客観的な尺度で表す方法として、このガイドラインでは「マンセル表色系」を用います。



色の感情効果

人は色から様々な“感じ”を受けますが、その中でも比較的多くの人に知られているのが、色の持つ「温度感」です。「暖色(Warm Color)」は太陽を象徴し、人に元気を与える色彩であり、その反対が「寒色(Cool Color)」と呼ばれます。

色と面積の関係

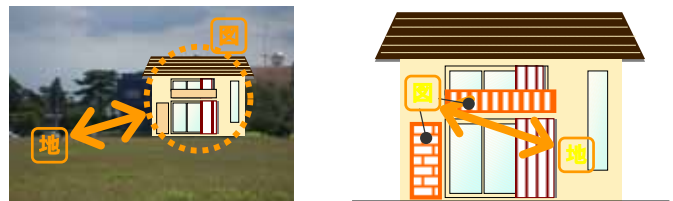
配色を考える際には、色の面積バランスを考慮することが大切です。例えば、一つの広告物の中で同じ色を使用する場合、「図」として小面積で使った時は広告効果が高くても、「地」として大面積で使うと「騒色」となってしまうことがあります。



「地」と「図」の関係

建築物等の色彩を考える際には、背景となる「地」の色とのバランスを考慮することが大切です。

このような「地」と「図」との関係は、「背景色」と「建築物等」だけではなく、「建築壁面色」と「部材色」等でも考慮する必要があります。



建築物の外壁色が、左の場合は「図」、右の場合は「地」として捉えられる。

見る距離と色の関係

景観は視点によって目に映る構成要素が変化し、物の見え方も異なってきます。まちの色彩を考えるにあたっては、特に「中景」での見え方を意識して考えることが大切です。

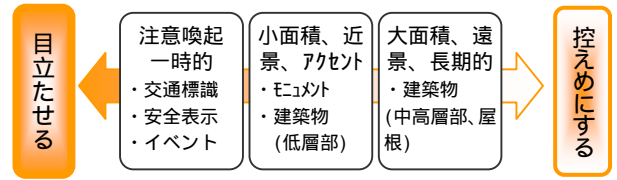
2 まちの色彩の基本原則

建築物や工作物の色彩を考える際には、次のような点を考慮してください。

目立たせる色を絞り込む

まちの景観を構成する要素が「目立たせるもの」か「控えめにするもの」かを考えることが大切です。

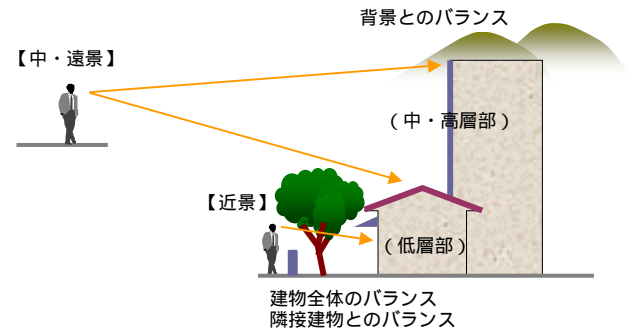
例えば、交通標識など遠くからでも注視性が求められるものは「目立たせる」色使いが必要である一方、大きな面積のものは、それだけで存在感があるため、「控えめな」色使いとすることが原則です。



見られる距離に配慮する

市街地のような建物が建ち並ぶ場所では、人から見られる距離は近く、人の視線が細部に及びます。一方で、視界の開けた田園地や山間部、また市街地でも高い位置に視点場があるような場所では、人から見られる距離は遠くなり、建物全体や屋根の色などが気になります。

このように、どこから見られるか、その距離はどのくらいによって配慮するポイントが異なってきます。



地区の色を把握する

建築物等の色彩を考えるとき、周辺の環境を「地」、建築物等を「図」として捉え、建築物等の基調色を検討する必要があります。

そこで、建築物等が立地する場所の周辺を見渡せる場所から写真を撮り、視界の中にどのような要素があり、それらにどのような色彩の特徴があるのかを把握することが大切です。



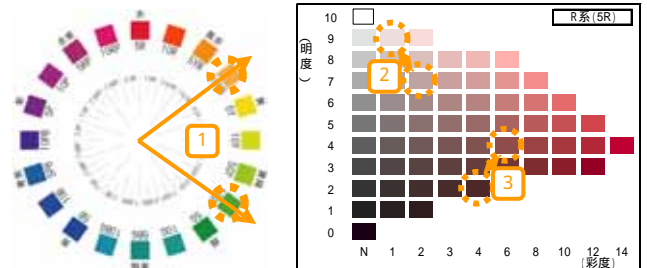
色の持つ機能性に配慮する

赤色は「危険」、黄色は「注意」、緑色は「安全」など、情報を色によって視覚的に伝達しているものがあります。

建築物等の色を考えるとき、他の必要な情報の伝達機能が低下しないように配慮する必要があります。

色調をそろえる

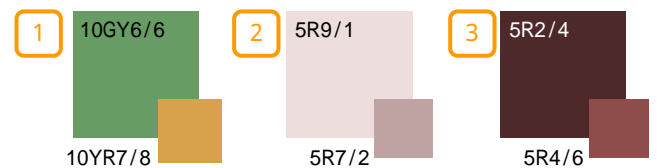
まち並み景観の「地」となる基調色について考える場合、周辺の色と色調（色相・明度・彩度など）の近い色を用いて、まち全体の色調をそろえることによって、魅力ある色彩景観をつくれます。



大面積で使う色の彩度を抑える

まちの色彩を誘導する際、「彩度を抑える」という手法がよく使われます。様々な色がまちにあふれている状況の中で、彩度の高い色はその存在を主張し、全体が騒然としたまち並みになります。

そこで、大面積で使う色の彩度を抑えることで、ある程度の調和を保つことができます。



3 景観色彩誘導基準

景観色彩誘導基準は、景観計画で設定された3つのゾーンごとに、色彩に関する基本方針と配色のポイントを示します。

なお、木材や土、石などの自然素材は、経年変化によって穏やかな色彩に変化することが多いことから、自然の素材色は当ガイドラインの対象外とします。

また、他法令等に基づいて定められた基準や指針等がある場合は、それらを優先するものとします。



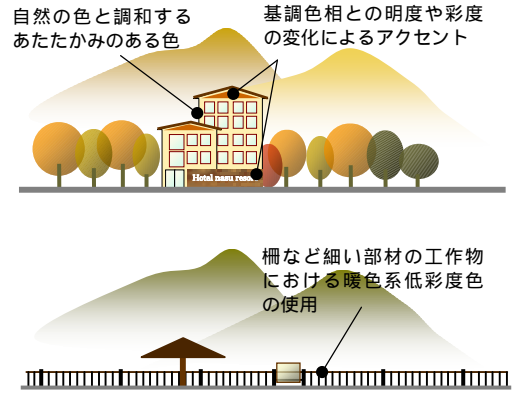
山間・観光ゾーン

四季折々に変化する自然の色を活かし、訪れる人の心を和ませる、あたたかみのある色彩



色彩誘導の基本方針

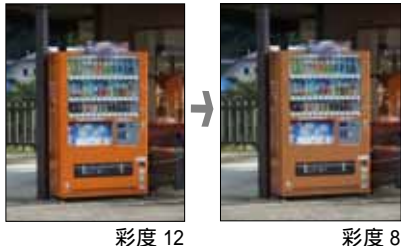
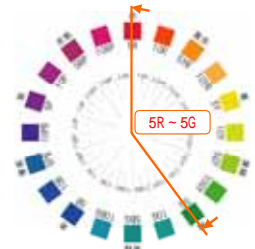
- * 大きな面積を占める建物の壁面や屋根面の色は、暖色系の色相で中～低彩度を中心とした色彩を基調とすることで、背景となる自然の色と調和させるとともに、あたたかみの感じられるようにします。アクセントをつける場合も、色相ではなく明度や彩度で変化をつけるようにします。
- * 細い部材や小工作物などは、暖色系の低彩度色を使用することで、山並みとの調和に心がけます。
- * 照明灯の少ない山間部や林間部の道路に設置された防護柵等は、安全性を優先しつつ、可能な範囲で景観的な配慮を行うよう努めます。



配色のポイント

- * 背景となる自然の色から突出しない
- * 壁面と屋根面の色相をそろえる
- * シンプルな配色で広告効果を維持する
- * 小面積のアクセント色で個性を表現する
- * 自動販売機や道路上の工作物の色彩にも配慮する
- * 歩く人にやさしい歩道色彩とする

色彩誘導基準（基調色）

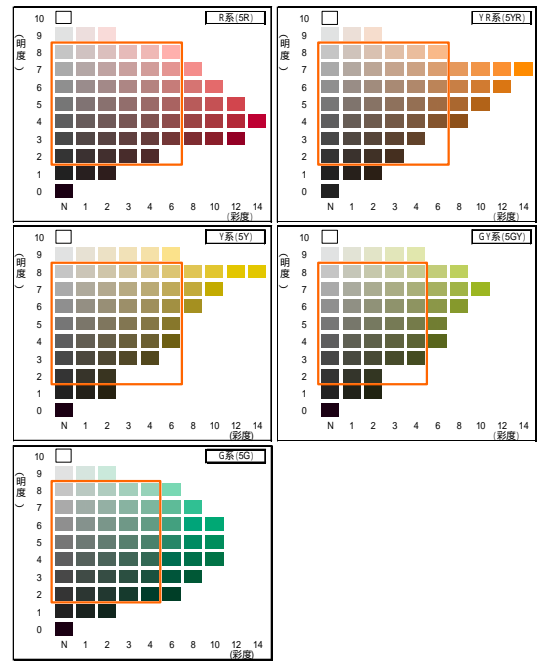


色相	明度	彩度
5R～10Y	2以上	6以下
0GY～5G	8以下	4以下

彩度を少し抑えることで、背景の自然に違和感なくとけ込む。



アクセント色は、建物全体のイメージに影響を与えないよう、当該立面積の5%程度に抑えることが望まれる。



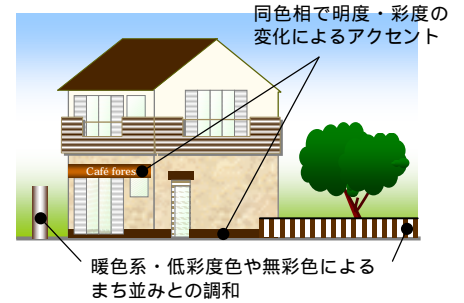
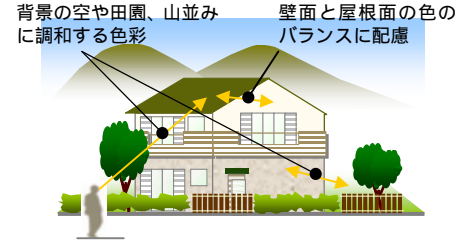
農業・集落ゾーン

田園や平地林の緑、空の青に調和した、
親しみのある色彩



色彩誘導の基本方針

- * 大きな面積を占める建物の壁面の色は、暖色系の色相で高明度、中～低彩度を中心とした色彩を基調とすることで、背景となる空や田園に調和させるとともに、親しみの感じられるようにします。
- * 屋根面の色は、同じ暖色系の色相で中～低明度、中～低彩度を中心とし、壁面色とバランスのとれた色彩とします。
- * アクセントをつける場合も、色相ではなく明度や彩度で変化をつけるようにします。
- * 細い部材や小工作物などは、暖色系の低彩度色又は無彩色を使用することで、まち並みとの調和に心がけます。



配色のポイント

- * 背景となる自然の色から突出しない
- * 大規模で単調な壁面に変化をつける
- * 地域特性である農家集落の雰囲気を残す
- * 安全性と景観の両面から色彩を決定する
- * シンプルで広告効果の高い看板を掲出する



農家集落に多いえんじ色の屋根

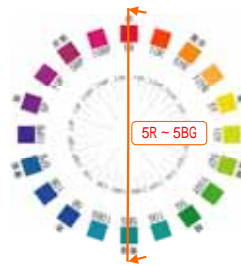


面的な部材だと白色が強調される

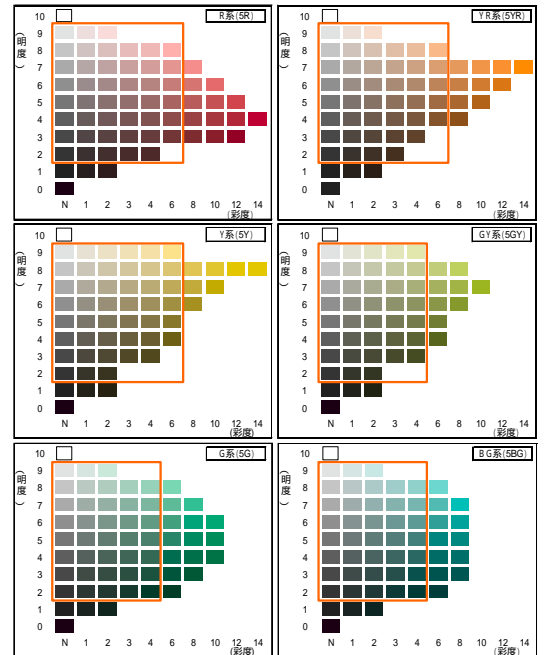


細い部材であれば違和感はない

色彩誘導基準（基調色）



色相	明度	彩度
5R～10Y	2以上	6以下
0GY～5BG	9以下	4以下



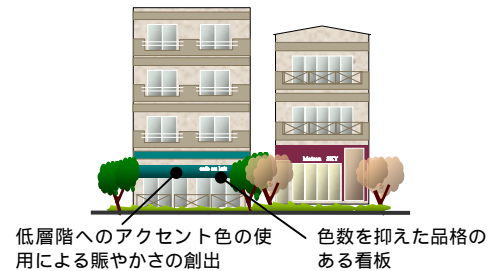
市街地ゾーン

多くの人々が交流する場としての賑わいと、まとまりのあるまち並みを創出する魅力ある色彩



色彩誘導の基本方針

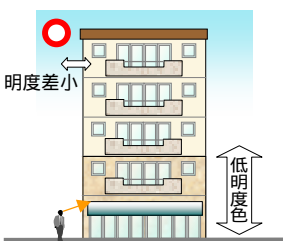
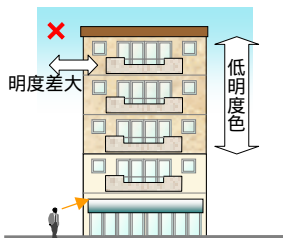
- * 大きな面積を占める建物の壁面の色は、暖色系は高明度、中～低彩度、寒色系は高明度、低彩度を中心とした色彩を基調とすることで、まち並みとしての秩序を保ちます。
- * 屋根面の色は、中～低明度、中～低彩度とし、壁面色とバランスのとれた色彩とします。
- * アクセントとして高彩度色を使用する場合は、小面積で効果的に使用するものとします。
- * マンションや業務ビル等の高い建物では、単一色ではなく、低層部と中～高層部で明度や彩度を変えることにより、まち並みに変化をつけることが望まれます。
- * 看板等で表示面に使用する色数を抑え、全体のバランスに配慮します。



配色のポイント

- * まとまりのある眺望景観をつくる
- * 単調な壁面に変化をつける
- * まち並みの表情に変化をつける
- * まち並みの連続性に配慮する

色彩誘導基準（基調色）

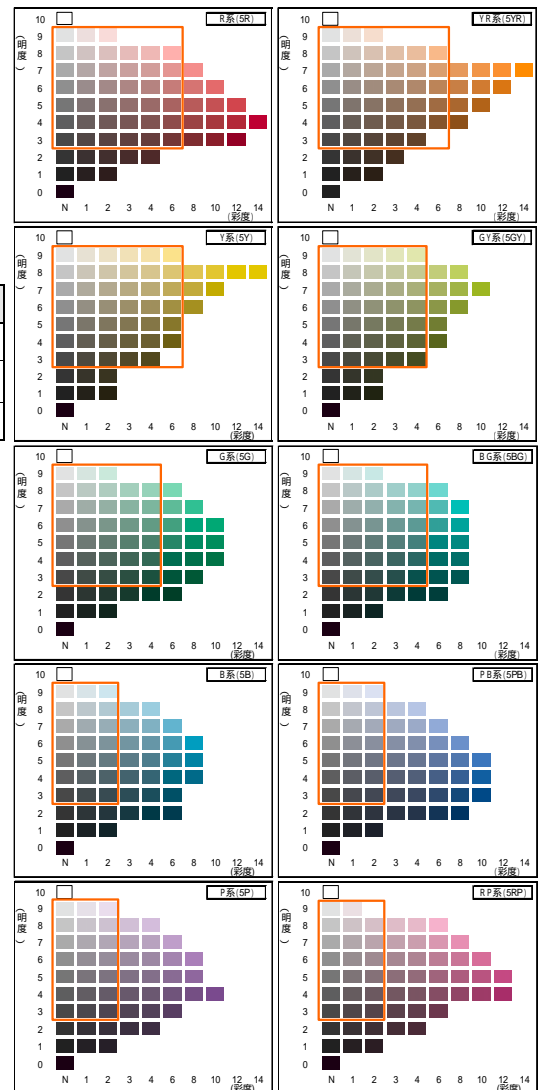


高層部に高明度、低層部に低明度を用いることにより、まち並みの表情に変化をつけるとともに、建物の安定感が感じられるようになる。



形態は様々でも、壁面や屋根面の色彩に共通性を持たせることで、まち並みの連続性に配慮する。

色相	明度	彩度
OR～10Y	3以上 9以下	6以下
0GY～10BG		4以下
0B～10RP		2以下



4 特定エリアにおける配慮事項

本市の景観を考える上で、特に重要なエリアとして、右図の「ふるさと街道エリア」と「街道エリア」を設定しています。
 これらのエリアにおいては、ゾーン別の景観形成基準に加えて、ここに示す事項についてもあわせて配慮することが望まれます。



(主)矢板那須線



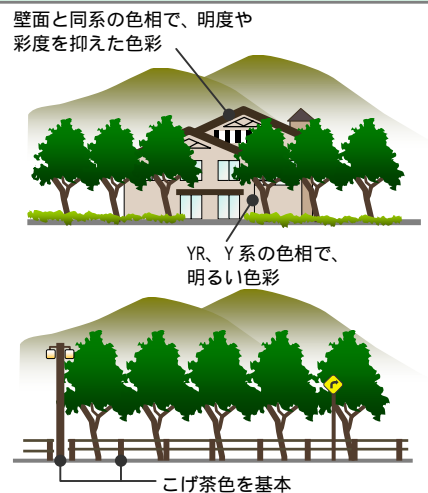
(主)大田原高林線



ふるさと街道 エリア

緑に包まれた“ふるさと”のイメージに調和した、心なごませる色彩

- * 建物の壁面の色は、黄(Y)系や黄赤(YR)系の色相で低彩度、中～高明度を中心とした明るい色彩を基調とすることで、沿道の木々の緑や背景の山並みの色と調和させます。
- * 屋根は壁面と同系色相で明度、彩度を抑えた色彩とし、壁面色と調和した配色とします。
- * 信号機や照明灯、防護柵、案内板等の道路付属物や道路占用物の支柱等、直接の機能を有しない部分の色彩は、背後に立ち並ぶ木々の色にとけ込むよう、こげ茶色を基本とします。
- * その他、沿道前面に置かれる看板や小工作物等も原色の使用を避け、こげ茶色を基本とした色彩とします。



対象	色彩誘導基準	参考となる色の範囲	推奨色
建築物	* 背景となる自然景観(樹林・田園など)に調和する色彩に配慮し、壁面は中～高明度、低彩度の暖色(ベージュ色、クリーム色、茶色など)又は無彩色(灰色など)とします。	* 色相: R, YR, Y, N * 明度: 4 以上 * 彩度: 3 以下	2.5Y8/2 5Y9/2
	* 屋根は低～中明度、低彩度の暖色(こげ茶色、オリーブ色など)又は無彩色とします。	* 色相: R, YR, Y, N * 明度: 6 以下 * 彩度: 3 以下	5YR1/2 7.5Y4/2
道路付属物、道路占用物	* アルミや鉄など金属を使用する場合は、こげ茶色に着色します。	* 色相: YR * 明度: 4 以下 * 彩度: 2 以下	10YR2/1 10YR4/2
	* 石や木などの自然素材を使用する場合は、素材本来の色を活かしたものとします。	-	-
看板	* 板面は木材の無垢(素材色)又はこげ茶色とし、文字色は黒色、こげ茶色又は白色を原則とします。	* 色相: YR * 明度: 4 以下 * 彩度: 2 以下	10YR2/1 10YR4/2
自動販売機	* CI カラー(*)などによる高彩度色の使用は極力避けるようにします。	* 色相: YR * 明度: 4 以下 * 彩度: 2 以下	10YR2/1 10YR4/2

(*)CI カラー: 企業や団体等の組織を象徴する色

本市の観光スポットへと誘う、緑豊かな街道景観に調和した色彩

- * 建物の壁面の色は、赤(R)系～青緑(BG)系の色相で低彩度、中～高明度を中心とした明るい色彩を基調とすることで、背景の農地や平地林の色と調和させます。
- * 屋根は壁面と同系色相で明度、彩度を抑えた色彩とし、壁面色と調和した配色とします。
- * 信号機や照明灯、防護柵、案内板等の道路付属物や道路占用物の支柱等、直接の機能を有しない部分の色彩は、背後に立ち並ぶ木々の色にとけ込むよう、彩度を抑えた控えめな色彩とします。
- * その他、沿道前面に置かれる看板や小工作物等も原色の使用を避け、こげ茶色を基本とした色彩とします。

壁面と同系の色相で、明度や彩度を抑えた色彩



R～BG系の色相で、明るい色彩



背景に調和する控えめな色彩 (特に垂直方向の部材)

対象	色彩誘導基準	参考となる色の範囲	推奨色
建築物	* 壁面は低彩度、中～高明度の暖色（ベージュ色、クリーム色、茶色など）又は緑（G）系の中間色（白緑色など）とします。	* 色相：R、YR、Y、GY、G、BG * 明度：4以上 * 彩度：3以下	
	* 屋根は低～中明度、低彩度の暖色（こげ茶色など）や中間色（鉄色など）又は無彩色とします。	* 色相：R、YR、Y、GY、G、BG、N * 明度：6以下 * 彩度：3以下	
看板(案内誘導看板に限る)	* 板面は木材の無垢又はこげ茶色とし、文字色は黒色、こげ茶又は白色が望まれます。 * CIカラーを用いる場合は、マークなどの小面積に限ります。	* 色相：YR * 明度：4以下 * 彩度：2以下	
自動販売機	* CIカラーなどによる高彩度色の使用は極力避けるようにします。	* 色相：YR * 明度：6以下 * 彩度：2以下	

那須塩原市景観色彩ガイドライン 概要版

平成22年3月

発行：那須塩原市

編集：那須塩原市 建設部 都市計画課

TEL：0287-62-7159

FAX：0287-62-7224

E-mail：k-toshikeikaku@city.nasushiobara.lg.jp

このパンフレットの色票や色見本等の色彩は、印刷による色再現のため、実際の色とは異なる場合があります。